

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00105

研究課題名（和文）土着的、近代思想としての東学（天道教）と開闢思想

研究課題名（英文）Donghak (Tendo-kyo) and founding thought as indigenous and modern thought

研究代表者

辺 英浩 (Byeon, Yeongho)

都留文科大学・文学部・教授

研究者番号：50264693

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は自生的、土着的近代思想として韓国の開闢を唱える諸宗教を比較思想史的視座より世界史的意義を明らかにしようとするもので、東学（1860年創始、1905年天道教と改称）を中心とした開闢諸思想・宗教がその検討対象であった。東学農民戦争、民衆運動の視点でのみ研究されてきた東学、天道教を西洋的近代化、西洋的近代思想とは異なる近代化運動、近代思想であることを明らかにし、開化思想への流れとは異なる韓国近代思想史の道筋を提示した。東学經典の精密な日本語訳を作成することが本研究のもうひとつの課題で、開祖崔濟愚の全著作の日本語全訳を刊行し、二代目以降の翻訳作業も継続している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

韓国近代思想史を東学を中心とした流れとして書き直すことができるようになった。東学は国家、政治権力の力が強い東アジアでは稀な国家権力から自立した人格、人格神観念を有し、民衆一人一人の中にこの人格神観念を内在化させた。この人格神観念が現代韓国において人格宗教であるキリスト教の受容がなされた起源でもあり、本研究の現代的意義を確認しえる。東学は全ての宗教思想は同じ窮極的価値を有するとした。これにより他宗教思想に寛容な態度をとるが、諸宗教・思想間の争いにも否定的態度をとり、諸宗教・思想の共存が必要な現代において取り上げるに値する点も確認しえた。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify the world historical significance of the religions that claim to be the founding of Korea as an indigenous, indigenous modern thought from the perspective of comparative intellectual history, and the subject of the study is Donghak (founded in 1860, renamed Cheondogyo in 1905). Donghak and Cheondogyo, which have only been studied from the perspective of the Donghak Peasant War and the people's movement, have been shown to be modernization movements and modern thoughts that are different from Western modernization and Western modern thought, and a path for Korean modern intellectual history that is different from the trend toward enlightened thought has been presented. Another task of this study is to create an accurate Japanese translation of the Donghak scriptures, and a complete Japanese translation of all the works of founder Choi Je-u has been published, and translation work by the second generation and subsequent generations is ongoing.

研究分野：思想史

キーワード：東学 天道教 開闢 土着的近代 儒教 天 上帝 韓国

1. 研究開始当初の背景

本研究は直接には、二国間交流事業「韓国(NRF)との共同研究」(研究代表者;片岡龍東北大学教授、2017~2018年度:東北大学と圓光大学校)における「日韓中三国の伝統思想の近代化に関する思想史的考察」「生命・平和・共生中心の『近代性』論再構築の模索」を土台にしている。ここでは北島義信氏の提唱した「土着的近代化」、「土着的近代思想」という視点から韓国の東学(天道教)、甌山教、圓仏教などの開闢を唱えた宗教思想を日本、アフリカのウブントウ、ガンジー、イスラムのタウヒードを比較対象としつつ、思想内容の再検討を行った。従来東学は民衆・農民運動としてだけ高く評価され、思想内容が高く評価されてこなかったが、土着的近代思想として世界史的意義を有することを解明する必要性が一層感じられた。

同時に日本での東学研究の活性化のために東学教祖たちの史料の全文翻訳が必要と感じられ、翻訳作業の必要性も緊急を要する事柄であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、土着的、自生的近代思想を朝鮮、韓国の東学・天道教を中心としつつ、甌山教、円仏教などの開闢を唱える思想から取り出し、他地域の思想との比較を踏まえ、その世界史的意義を明らかにしていこうとするものである。その学術的独自性と創造性は以下の通りである。

(1)土着的近代思想という視点を導入することで東学農民戦争、民衆運動の視点でのみ研究がされてきた東学、天道教を西洋の近代化、西洋的近代思想とは異なる近代化運動、近代思想として評価することができるようになる。東学を始めとした開闢思想を土着的、自生的近代思想として評価することで、従来の韓国近代思想史とは異なる新しい研究が可能となる。

(2)東学など開闢思想は朝鮮王朝の正統思想である儒教との緊張関係の中で誕生し、価値の中心を中国の「聖人」から韓国の「民衆」に移行させ、中国哲学からの独立宣言を意味していた。

(3)東学は、国家、政治権力の力が強い東アジアでは稀な国家権力から自立した人格、人格神観念を有している。この人格神観念が現代韓国人でしばしば行われる「良心宣言」などへ影響を与えていることを明らかにする。

(4)孫秉熙は政治と宗教は配偶者の関係にあるとしたが、ここから政教分離の特殊近代西欧的、歴史的な性格を再検討できる視座が提供できる。

(5)東学は全ての宗教思想は同じ窮極的価値を有するとし、他宗教思想に寛容な姿勢をとり、諸宗教・思想間の争い、戦争に対して否定的態度をとる。朝鮮王朝の正統儒教が「斯文乱賊」に代表されるように異端とする他の考えに否定的な態度をとっていたのとは異なり、安重根の「東洋平和論」にも通じるものがある。諸宗教・思想の共存が必要な現代において取り上げるに値する点である。

(6)3・1独立万歳運動を東学第3代教祖、天道教初代教祖である孫秉熙が主導したが、この運動の再評価が可能となる。孫秉熙の思想研究自体がまだ乏しく、発展させることで3・1独立万歳運動やそれ以後の天道教についての研究の深化が期待される。

3. 研究の方法

- (1) 東学の崔濟愚、崔時亨について批判的な研究整理を行う。崔濟愚の東学創始と「再び開闢」「後天開闢」「天人問答」や崔時亨の「事人如天」「天地父母」などいまだ研究整理の余地は大きい。このため經典をはじめとした史資料の読み込みと正確な翻訳を進める。
- (2) 崔濟愚に始まった人格神と人間との対話は、その後孫秉熙に至り自然法則的世界観となり、人格神観念は消失するという見解もだされている。この自然法則と人格神の整合性を孫秉熙の著作を読み込むことで統一的な理解を提示する。
- (3) 比較的兼研究蓄積が薄い孫秉熙のなかで、同帰一体、教政双全の一層の研究の深堀を行う。
- (4) 3年のうちに、東学の經典の翻訳作業を進め、3年目までに一定の範囲を翻訳して刊行し、学会の基本財産として、今後の日本での研究の進展に資することを目的とする。少なくとも、崔濟愚の著作は日本語で読めるようにする。

4. 研究成果

- (1) 『【全訳】東学・天道教開祖 水雲・崔濟愚「東經大全」「龍潭遺詞」』
邊英浩監修・訳、金鳳珍訳、崔濟愚著、総176頁、明石書店、2023年2月
- (2) 共著『共生と記憶の比較文化論 ともにつくる歴史と現在』都留文科大学比較文化学科編、2024年3月、春風社
担当：第9章「韓国・朝鮮の基層文化と現代」(263~297頁) 総35頁
- (3) 単「東学・天道教教主 孫秉熙の思想の再評価」『都留文科大学研究紀要 第91集』
2020年3月、9~25頁。
- (4) 単「韓国史における人格神(天)と良心宣言 - 儒教と東学・天道教を中心として」
『都留文科大学研究紀要 第97集』2023年3月、35~45頁。
- (5) 単「韓国思想史の磁場に対する試論 社会から哲学・神観念まで」
『都留文科大学大学院研究紀要 第27集』2023年3月、157~173頁。
- (6) 国際学会報告「韓国史における上帝、天、天主(ハナム)観念と茶山 儒教的天と東学的天との比較を中心に」『2023世界茶山学国際学術大会 世界茶山学と19世紀』
2023年12月13日、1-20頁。成均館大学東アジア学術院主宰
- (7) 邊英浩・李泰鎮・笹川紀勝編集『3・1独立万歳運動と植民地支配体制』明石書店、
2020年12月。 担当：「はじめに」3~6頁、「孫秉熙の思想と3・1独立万歳運動」
329~357頁、「あとがき」693~695頁

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 邊英浩	4. 巻 97
2. 論文標題 韓国史における人格神（天）と良心宣言 - 儒教と東学・天道教を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都留文科大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 35～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 邊英浩	4. 巻 27
2. 論文標題 韓国思想史の磁場に対する試論 社会から哲学・神観念まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 都留文科大学大学院研究紀要	6. 最初と最後の頁 157～173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 邊英浩
2. 発表標題 「韓国史における上帝、天、天主（ハナムム）観念と茶山 儒教的天と東学的天との比較を中心に」
3. 学会等名 2023世界茶山学国際学術大会 世界茶山学と19世紀（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 邊英浩監修・訳	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 【全訳】東学・天道教開祖 水雲・崔濟愚「東經大全」「龍潭遺詞」	

1. 著者名 邊英浩 笹川紀勝 李泰鎮編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 725
3. 書名 国際共同研究 三・一独立万歳運動と植民地支配体制 国民意識の誕生	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			